

宮城



大震災から10年

宮城県屋外広告美術協同組合

理事・技術開発委員長・みやび広和会長

森 英源

(有限会社森看板工業)

私が住む宮城県亶理町は、冬は暖かく夏は涼しく「東北の湘南」と呼ばれています。

亶理町は海・山・川に囲まれ、住みよいまちです。名物の「はらこめし」や「ほつきめし」「いちご」など海の幸、山の幸がたくさんあります。

私は亶理町の沿岸部の荒浜で仕事をしており、東日本大震災では荒浜地区は甚大な被害を受けました。その当時は事務所のパソコンで図面を書いていた。夕方から仙台の方で打ち合わせがあり、打ち合わせの準備を進めている中での大地震でした。地震直後は津波の危機意識は無く事務所の中が散乱しているのが片づけをしていました。そんな中、事務所前の道路を一台の軽トラックの方の一言で避難しました。

「大津波が来るぞ、早く逃げろ」大津波と聞いた瞬間にここに居たらヤバイと思いい、父と二人で5km離れた山まで避難しました。一時間後には荒浜地区全域に津波が押し寄せ、私の事務所も道路より2・5m程浸水しました。

地震発生から一週間後に事務所に行きましたが、向かう途中には、道路の真ん中には流されてきた家・船



ああの時の電気が付いた瞬間は今でも覚えています。大震災での私が思った事は「逃げるルートを何通りかイメージする」



船等、今まで見たことが無い光景でした。幸い事務所は浸水はしたものの流されてなく、建物は残っていました。所有の平トラックは300m先の川で見つかり、トラックはA4用紙を両手でグシャグシャにしたような姿でした。事務所の中はすべてのガラス窓が無くなり流れ着いた漁師が使う網等色々なもので散乱していました。



「二度逃げたら戻らない事です。逃げるルートはイメージしていても地震により通れない・渋滞の可能性があるので、何通りかイメージがあると臨機応変に対応する為です。」一度逃げたら戻る訳ないと普通は思いますが、大震災の時は津波の到着は一時間後でした。その一時間の間に津波が来ないと思ひ込み「ちよと通帳取ってくる」「忘れ物を取ってくる」等、独自の判断で自宅に戻り、荒浜地区でも数名の方が亡くなっています。日本は地震大国ですので、頭の片隅にでも覚えてもらえると嬉しいです。

結びに、一日も早い新型コロナウイルスの終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

ECO MATERIALS
— エコマテリアル —

PVCフリー製品をはじめとするエコマテリアルをご紹介します。地球環境の保護、地域社会の発展に貢献していきます。

サステナブル・サプライヤー宣言2030
www.kinugawa.com/sustainability/

Decoma
デコレーションマーケット

ディスプレイ&サイン資材の専門店

deco-ma.com
Instagram @DECOMA_DISPLAY

TOTAL DISPLAY パック 株式会社
〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-28-6 タニビル 4F
TEL 03-5609-7600 FAX 0120-03-3711
http://www.kinugawa.com/pack info@pack-display.com

サインデザイン科

YouTube 紹介動画

技能を
その手に

宮城県立高等技術専門学校

学校見学・求人に関するお問い合わせ先
宮城県立仙台高等技術専門学校(サインデザイン科 担当指導員まで)
〒984-0032 仙台市宮城野区田子1-4-1
TEL:022-258-1151 FAX:022-258-5152